

登録コード	E2021900	開講年度	2026			
授業科目	漢文学概論				担当教員	西 一夫
英文授業名	Introduction to The Chinese Classics				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生
講義室	教育N102講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	中等教育における漢文教材は多様な教材化がなされている状況を理解すると共に、「我が国の言語文化」としての漢文教材のあり方をも理解して教材研究と授業実践とができるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、多文化協働					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	中等教育の古典教材として漢文領域は一定の分量を有する。 漢文教材は、詩・文（物語・思想など）と幅広い。そうした中で教材としての目的や学習内容を明確にしておくことが、新しい学習指導要領（我が国の言語文化）の実現において必須である。そのため、従来の漢文学研究の成果のみならず、言語文化として漢文を国語科で教材化するための方法知や従来の研究成果を援用した教材研究の在り方について、具体的な教材を取り上げて講義・教材化する。					
(5)授業計画	第1回：なぜ訓読という方法は必要であったか。 第2回：漢文のジャンルと教材 第3回：韻文①（近体詩：杜甫・李白） 第4回：韻文②（近体詩：王維・白居易） 第5回：韻文③（古体詩） 第6回：散文①（故事成語：矛盾・蛇足） 第7回：散文②（故事成語：五里霧中・五十歩百歩） 第8回：散文③（思想：概説・論語） 第9回：散文④（思想：孟子） 第10回：散文⑤（思想：莊子・韓非子） 第11回：散文⑥（史書：史記（鴻門の会）） 第12回：散文⑦（史書：史記（四面楚歌）） 第13回：散文⑧（物語：桃花源記） 第14回：散文⑨（物語：人面桃花ほか） 授業アンケート					
(6)成績評価の方法	成績評価は以下の通り。 1. DP1の「多様な教材化がなされている状況」の理解度をはかるために、各回の終了後に実施する小テスト（各回10点・13回＝130点） 2. DP1の「我が国の言語文化」としての漢文教材のあり方」の理解をはかるための小レポート（第2回、10点） 3. DP1の「教材研究と授業実践」の理解度をはかるための評価問題の作成 ①【中間評価問題作成】：受講生各自の興味関心に応じて、取り上げた教材（韻文①～散文②）から1つ選び、評価問題を作成する。（20点） ②【最終評価問題作成】：散文③以降で取り上げた漢文作品を用いて評価問題を作成する。あわせて「漢文学習が国語科に与える教育効果」についてレポートする。（40点） 4. 上記1～3の合計200点を100点換算して評価する 5. 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(7)成績評価の基準	秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、漢文教材への省察的な態度を持ちながらも批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題演習・実践課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。 優：授業内容を理解し、漢文教材への省察的な態度を持ちながら積極的に探究姿勢をもって課題演習・実践課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。 良：授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題演習・実践課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。 可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題演習・実践課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。 不可：授業出席以外は可とすべき内容を満たさない。					
(8)事前事後学習の内容	事前学習：次回授業で取り上げる教材を事前に読み、内容を理解して事前課題を終了しておく。 事後学習：取り上げた教材の内容を振り返り、解釈や学習活動で問題となった表現・句形などについて再吟味する。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。					
(9)履修上の注意	・基本的な文学史の知識、文法事項などの学習を済ませておくことが求められる。また事前に取り上げる章段を読んでおくことが必要となる。 ・「漢文学基礎」を履修済みであること（並行履修は不可）。					

(10)質問，相談への対応及び連絡先	原則的に授業時に直接おこなうことが望ましい。個人的な相談・質問の場合はメールにて。また，オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は，その他の時間でも可。 研究室：中校舎4F 408 内線番号：4072 アドレス：nishika@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	取り上げる作品の複数教科書等を合わせて配布する。
【参考文献】	適宜紹介する。